

## 基調講演・行政説明・特別講演・通常総会のご案内

2008年 6月13日(金)

【 基調講演 】 10:15~11:30

「成長する精神保健福祉士 ～さまざまな“枠”をこえて～」

講師： 佐々木 敏明 氏(聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 教授)

精神保健福祉領域のソーシャルワーカーが精神保健福祉士という名称の国家資格となってから10年目の節目を迎えました。この間、新たな精神保健の課題への対応や障害者自立支援法の制定など、精神保健福祉の状況はめまぐるしく変化し、精神保健福祉士に対しても期待の高まりとともに、改めてその専門性と力量が問われています。

Y問題の舞台となった神奈川県で開かれる本大会において、参加者とともに“かかわり・自己決定”と“かかわりの場(コミュニティ)の創出”を核に展開してきた先達の実践をふりかえりながら、ソーシャルワーカーとして変わらないもの(専門性)を再確認するとともに、今、何を变えるべきかを見極め、新たな地平を切り拓き成長する精神保健福祉士像について考えてみたいと思います。

### 【講師プロフィール】

1967年3月 北星学園大学文学部社会福祉学科卒業。

国立武蔵療養所などのPSWを経て、北海道立精神衛生センターのPSWを約15年勤務。

その後、北海道衛生部において精神保健行政を担当。

1993年から東日本学園大学(現:北海道医療大学)の教員となり、現在は、聖隷クリストファー大学社会福祉学部で、精神保健福祉士等の養成を担当している。

【 行政説明 】 12:30~13:10

テーマ： 未 定

講師： 調整中(厚生労働省予定)

2008年 6月13日(金)

【 特別講演 】 13:10~14:15

「多文化、多言語の人々と共に働くソーシャルワーカー」

講師： 稲垣 典子 氏(カリフォルニア州公認臨床ソーシャルワーカー)

社会福祉の営みは、はるか昔から時代の変化や国境を越えた、人間を大切にするための営みであったことができます。本大会は、社会経済活動などの低迷のなかでますます多様化する福祉ニーズをふまえ、「さまざまな“枠”をこえて」われわれの取り組みを再検証し、新たな地平をめざす第一歩となることをめざしています。

今回は、特別講演者に稲垣典子先生をお迎えしました。先生は長く、カリフォルニア州公認臨床ソーシャルワーカーとして東南アジア人のメンタルヘルス支援に従事してきました。厳しい格差社会のアメリカで奮闘している先生の体験談は、“さまざまな枠をこえた”人間を大切にする情熱、謙虚さ、喜びと悲しみ、ユーモア、警告やメッセージに満ち溢れています。なお、稲垣先生は、全米で最難関の州ライセンス取得者であり、2006年にはNAMI(全米精神障害者家族連盟)から特別賞を授与されました。また、2001年、当事者と始めたオークランド版画教室がアラメダ郡より特別賞を受け、2005年には3人の当事者、精神科医と共に、奈良県にある「たんぽぽの家」で講演、版画の展示即売を行っています。

#### 【講師プロフィール】

東京都生まれ。

高校卒業後、3年間会社勤めをするが、新聞に掲載された記事をきっかけに、ソーシャルワーカーを志す。

1962年 ポストン市へ留学。

1968年 ポストン市エマニュエル大学卒業。

1970年 ポストン市シモンズ大学大学院卒業後、帰国。

※在学中に、ハーバード大学精神医学部で臨床授業を受ける。

1971年 桜ヶ丘保養院(現:桜ヶ丘記念病院)実習。

神奈川県精神衛生センター(現:神奈川県精神保健福祉センター)勤務後、再渡米。

1974年 サンフランシスコ市の日本人町でNPO「気持会」の施設長として高齢者福祉の仕事に携わる。

1989年 オークランド市にあるNPO「アジアン・コミュニティ・メンタル・ヘルス・サービス(ACMHS)」で、日本人・日系人・アジア人を対象に、再発・再入院をできるだけさけて、可能な限り地域で暮らすための、24時間体制のケースマネジメント(処方・セラピー・生活支援)を提供する。

1995年 カリフォルニア州公認臨床ソーシャルワーカーのライセンスを取得。

現在は臨床スーパーバイザーとしてケースを持ち、後進の指導にあたる。

※ なお、当日はオークランド版画教室で、障害者が作成した版画や絵ハガキ等の作品を展示・販売する予定です。

【 第5回 通常総会 】 14:45~17:15

\* 本協会の通常総会ですので、構成員は必ずご出席下さい。

\* 事前に送付する「第5回通常総会議案書」をご持参下さい。

\* 構成員は、必ず「Membership Card(会員証)」及び「会章(会員バッジ)」をご持参下さい。